

ソーシャルワーク論Ⅲ

担当教員 豊田 保

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解できる。
2. 相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解できる。
3. 相談援助の過程、知識や技術（介護保険及び障害者総合支援のサービス計画等を含む）について理解できる。
4. 相談援助における事例分析の意義や方法について理解できる。
5. 相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について理解し、支援が展開できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ソーシャルワーク（相談援助）における援助関係の意義と概念を理解する（利用者の意思決定支援）
2	ソーシャルワーク（相談援助）における関係形成を理解する（ラポール、自己覚知など）
3	ソーシャルワーク（相談援助）の機能・役割を理解する（ミクロ・メゾ・マクロの相互関係）
4	インテークの意義、目的を理解する
5	インテークの方法、留意点を理解する（マイクロカウンセリング等傾聴・共感等のスキル）
6	アセスメントの意義、目的を理解する（問題把握・ニーズ確定支援等・エコマップのスキル）
7	アセスメントの方法、留意点を理解する（事前評価から支援目標等記入のスキル）
8	プランニングの意義、目的を理解する（援助計画、介護保険のケアプラン、ナラティブのスキル）
9	プランニングの方法、留意点を理解する（援助計画、センター方式のスキル）
10	説明と同意、及び各サービス計画を理解する（ケアプランの作成と契約スキル）
11	モニタリングと評価の目的、方法を理解する（プロセス評価とアウトカム評価）
12	再アセスメントを理解する（初期アセスメント・再アセスメント）
13	終結と効果測定の目的、方法を理解する（支援プロセスの視覚化）
14	予防的対応とサービス開発を理解する（個別援助から地域支援へ）
15	相談援助論の総合スキルを理解する（新たな福祉サービス支援・全世代型援助）

【履修上の注意事項】

1. 社会福祉士国家試験受験資格取得希望者は、必ず履修する必要がある。
3. 予習については、授業計画のテーマに基づいて、テキストや他の文献等で事前学習すること（30分程度）。
4. 復習については、疑問点や理解不足の部分をテキスト等で再確認すること（30分程度）。

【評価方法】

期末試験と必要に応じたレポート課題によって評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編『相談援助の理論と方法Ⅰ』新・社会福祉士養成講座⑦、中央法規出版。

【参考文献】

社会福祉士養成講座編『相談援助の基礎と専門職』新・社会福祉士養成講座⑥、中央法規出版。 ※1年の教科書